



第2回

江別市学校給食用食器検討委員会

目次

- 第1回検討委員会の振り返り - - - 2
- 状況を改善するための手法検討について - - - 8
- 今後のスケジュール - - - 14

第1回検討委員会の振り返り

1.第1回検討委員会での事務局説明

当市では、材質面などにおいて優れた点がある強化磁器食器を学校給食用食器として使用している。

しかしながら、破損時に食器の欠片が食缶に混入するというアクシデント（事故）が発生している。

教職員等の適切な対応により、児童生徒が欠片を飲み込んでしまうという事態はこれまで発生していないが、陶器の欠片という**危険異物**の混入が起きている現在の状況は、給食を提供する側として深刻であり、改善しなくてはならないと考えている。

現在の状況を改善するために、**どのような手法があるのか**、児童生徒へのより安全な給食提供を行うために検討をお願いしたい。

2.第1回検討委員会での意見交換 ①

破損を通じて物を大切にするという教育指導は各学校で統一的に行われている？

⇒割れるという前提のもと、丁寧・大切に扱うという教育がどこでも指導されている。

（食器カゴを実際に持ってみて）驚くほど食器が重かったが、大切に扱うことを意識することで、緊張して扱いづらいといったことはあるのでは？

⇒子ども達は扱いに慣れているので、大切に扱っていながらも配膳作業が遅くなるなどの不自由は見受けられない。

子ども達はどのような形で配膳している？

⇒廊下まで配膳員にワゴンで運んでもらい、教室に搬入。そこから長机などにカゴを持ちあげて載せる形であり、カゴを持って長距離を運ぶことは、ほぼない。

2.第1回検討委員会での意見交換 ②

小学校の高学年は大人とあまり変わらないかもしれないが、低学年には負担が大きいと思う。

学校給食の在り方検討委員会では食器についてどのような議論がされたのか？

⇒食器については、食器検討委委員会による検討に委ねられている。

漂白作業では何を使って、どのくらいの期間で行っている？

⇒汚れたものは塩素を使って定期的に行い、長期休み明けには違う薬品を使用している。

最近になって事故が増えた？

⇒資料では新しい事故を紹介しているが、以前から発生している。

2.第1回検討委員会での意見交換 ③

食器洗浄の際の機械によるダメージがあり、食器が劣化していく？

⇒洗浄時のダメージもあるが、配送時の衝撃によるものもある。日常のダメージの蓄積により食器が劣化していくと考えている。

強化磁器食器に代わる食器として何か考えがある？

⇒参考として追加資料を配布するので、第2回検討委員会で検討をお願いしたい。

プラスチック食器は漂白作業に弱い？

⇒耐薬品性で優れているのは強化磁器。ただ、プラスチックでも溶け出して人体に悪影響を与える心配はないと確認済み。

洗浄における最高温度は？

⇒洗浄では75度。消毒は85度以上になる。

2.第1回検討委員会での意見交換 ④

江別市では給食は1日に約9,000食、年間170万食以上提供されている。

そのような現場で、異物混入や食中毒の防止について非常に敏感に考えながら作業している。陶器の欠片は異物としても危険異物に分けられるもので、提供する側として絶対に混入させたくない物である。

これから検討していくうえで食器の欠片というのは、非常に危険な異物ということを通の認識としたい。

資料の食器の中でメラミン食器は良いところも記載しているが、欠点もあり、全てが良いというわけではない。

状況を改善するための手法検討について

3. 現状を改善する必要性について

現状

- ・食器が割れて、児童生徒の食缶に混入する事案が発生している。
- ・児童生徒が配膳する際には食器は重く、割れるものという認識のうえ、各学校では丁寧な取り扱いについて指導している。
- ・配膳の回数を重ねることで配膳作業はスムーズに行われているが、小学校から中学校という幅が広い年齢層の中、低学年にとっては負担が大きい。
- ・食器の欠片は非常に危険な異物であり、それが混入するという事案が発生していることは重く認識しなければならない。

検討課題

- ・現状を改善し、**児童生徒の安全を向上するための手法を検討する必要がある。**

3. 手法検討① 現在の食器のまま対応を工夫する

理由

割れることによる異物の混入があったとしても、強化磁器食器には「家庭の食事に近い感覚で食事ができる」、「物を大切にすることを育む効果が期待できる」、「原材料の成分的に安心」という利点があるため。

そのためには

- ・ 調理場、配送後の配膳室の時点で劣化状況の確認を今以上に徹底して行う。
- ・ 配膳する児童生徒への食器の取り扱いに関する指導を今以上に言い、配膳時の破損を防ぐ。

懸念事項

- ・ 1日9000食、計27,000枚の食器を使用しており、視認が困難なものを含めた劣化した食器全てを取り除く具体的な方法がない。
- ・ 指導には限界があり、児童生徒が十分に注意して配膳作業をしても事故の発生を完全に防ぐことは困難と考える。

3. 手法検討② さらに丈夫な強化磁器食器に変更する

理由

2016年、一般に市販されている磁器の4倍以上の強度とされる磁器食器が佐賀県の窯業技術センターで開発され、地元業者により昨年度に商品開発され、販売されている。これに変更することにより、強化磁器食器の利点はそのままで事故発生率は減少すると考えられるため。

変更による変化

- ・破損率が減少すると推測される。
- ・若干ではあるものの1枚あたりの重量が増える（3g/枚、35人学級で1種類100g程度）

懸念事項

- ・破損が0になる訳ではなく、破損した場合は欠片が細かく、鋭利なものになるという状況は改善されない。
- ・さらに重くなることで、児童生徒の配膳作業負担、調理場の作業及び機器への負担、配送作業への負担等全般的な負担が増え、配膳にかかる時間が増える、落下による事故や怪我の可能性が増す恐れがある。
- ・商品開発されて間もないため、当市の様な規模の大きい調理場での使用実績がなく、破損率や均一な食器提供が可能かについて客観的なデータがない。

3. 手法検討③ プラスチック樹脂製食器に変更する

理由

プラスチック樹脂製食器は破損しにくい食器であり、通常の使用をしている場合において、細かく割れて欠片が食缶に混入する事態は発生しない。

前回検討時（平成24年）からプラスチック樹脂製食器を取り巻く状況も変化しており、学校給食の提供において、採用自治体も多く、現在の主流となっているため。

変更による変化

- ・破損事故が著しく減少する。
- ・種類によるが重量は現在の半分からそれ以下になり、児童の配膳作業時間が減少し、心理的な負担も軽くなる。

懸念事項

- ・過去の検討委員会においてもプラスチック材質の安全性への不安に対する意見が多く出されており、現在の状況について慎重な検討が必要である。
- ・破損する前提で大切に扱うという学びの効果については、破損しなくとも給食センターから借りている物という前提で、引き続き大切に扱う指導を学校に願います。

3. 手法検討④ そのほかの種類の食器に変更する

理由

陶器、プラスチック食器にこだわらず、木製食器やガラス食器などでもオリジナリティがあつて良いと考えられるため。

懸念事項

- ・食数が多い当市で、オリジナリティのある食器を安定した確保できるか疑問。
- ・もし検討委員からおすすめの食器があれば紹介してください。

今後のスケジュール

日程	内容
2025年12月18日	第1回江別市学校給食用食器検討委員会
2026年 2月	第2回江別市学校給食用食器検討委員会
2026年 4月（予定）	第3回江別市学校給食用食器検討委員会
2026年 6月（予定）	第4回江別市学校給食用食器検討委員会 提言書の完成、教育委員会への提出